



COCO

Community & Cooperative

No.51

2020年3月30日

発行所 / COCO湘南

〒252-0804 藤沢市湘南台7-32-2

Tel:0466-46-4976

Fax:0466-42-5767

発行者 / 大江守之

居住者募集

COCO湘南台 1名
COCOたかくら 1名

COCO湘南のHP

www.cocoshonan.org/



COCO湘南の20年とこれから

NPO法人COCO湘南 理事長 大江守之

1999年にCOCO湘南台が開設され、ほぼ同時期に運営するNPO法人も設立された。昨年2019年で20年の歴史を刻んだことになる。開設の翌年の2000年に施行された介護保険法以降、ケアを受けるためにともに暮らす様々な高齢者施設・住居が急速に増加した。こうしたなかで、ケアを共同居住の契機としないグループリビングは、「自立と共生」という理念に集約される緩やかな共同性、広い個室と豊かな共用空間を持つ住まい、そこに生み出された新しい暮らし方によって注目を集めることになった。その勢いにのって、NPO法人COCO湘南は、2003年にはCOCOありまを、2006年にはCOCOたかくらを開設した。たかくらは日本自転車振興会（現・（財）JKA）の補助を受けて建設したもので、同様のグループリビングが全国でつくられ、ともに活動する仲間も生まれた。

しかし、大都市圏郊外における賃借方式による事業は空き室への耐性が弱く、2016年にCOCOありまの運営からの撤退を余儀なくされた。また、2013年を境に入退去が頻繁になり、2011年に制度化されたサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）をはじめ多様な高齢者住宅・施設が増えるなかで、グループリビングはそれらと比較のなかで選択される住まいになっていった。長く安定して居住することを前提とした仕組みは、結果としてケアニーズの高まりにつながるが、一方で新しい入居者のケアニーズは相対的に低く、メンバーが変化していくなかで共同性の状態をどう認識するかも含めて、その対応方法は開設後15年目前後の運営の課題であり続けている。

2018年以降、神奈川県から有料老人ホーム登録をするように指導を受けている。これは制度にもとづかない高齢者の住まいを、入居者保護の観点から可視化できるようにするもので、社会的な必要性はよく理解できる。しかし、グループリビングの成り立ちからすれば、この登録要請に応じるのではなく、住居の提供をベースとして、居住者の意思にもとづく生活サービスの提供をサポートするという姿を明確にし、有料老人ホームの要件に該当しないことを示す選択をしたいと考えている。

この20年、日本社会の変化は激しく、高齢者の住まいをめぐる環境も大きく変化した。将来の社会変化も視野に入れつつ、ケアを契機としない共同居住を指向する人々のニーズと費用負担、実現可能な共同性の水準、建物の状態、無理のない事業運営などの変数のもとで、最適解に近いものを、それ自体が変化することも含めて、模索していく必要がある。